



|              |                                                                                     |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------|
| Title        | 大阪市のSARS対策について : 国際集客都市における感染症危機管理体制の構築                                             |
| Author(s)    | 半野田, 孝郎                                                                             |
| Citation     | 大阪公衆衛生. 2004, 75, p. 17-18                                                          |
| Version Type | VoR                                                                                 |
| URL          | <a href="https://hdl.handle.net/11094/83510">https://hdl.handle.net/11094/83510</a> |
| rights       |                                                                                     |
| Note         |                                                                                     |

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 大阪市のSARS対策について

## —国際集客都市における感染症危機管理体制の構築—

大阪市保健所感染症対策課長 半野田孝郎

本市では、全国平均の3倍と罹患率が極めて高い結核と近年、患者・感染者が急激に増加しているエイズへの対策が重要な課題となっています。

しかし、一方世界に目を向けますと、この度8,422人が罹患し、916人が死亡した重症急性呼吸器症候群（SARS）をはじめ1997年香港で18人が罹患し、6人が死亡したインフルエンザH5N1、1998年マレーシアで265人が罹患し105人が死亡したニパウイルス脳炎、2002年北米で2,156人が罹患し284人が死亡したウエストナイル熱など近年、新興感染症による被害が増大しています。

本市は、日本の代表的な国際空港である関西空港に近く、USJや世界的な競技大会が開催されるスポーツ施設を持ち、国際集客都市を目指しているところから、海外からの感染症の発生が危惧されます。

SARSは、今年3月中旬からアジア地域を中心に感染が大きく拡大していましたので、本市ではWHOが発している関連情報を大阪府医師会に提供し「疑い例」「可能性例」の通報の協力を依頼するとともに、ホームページやリーフレット等で市民の皆様には最新情報や予防方法についてお知らせしました。

また、4月初旬には関係局を含む対策会議を開催し、休日・夜間を含めて「疑い例」「可能性例」が発生した場合の一般相談や発生届け、また、保健所・局・各区保健福祉センター・環境科学研究所・消毒所・総合医療センター等への連絡体制、患者搬送、入院体制、接触者

調査等の実施方法を決めた「SARS対応マニュアル」を策定し、関係機関に配付して発生時の体制を整備しました。

5月のSARS騒動の際には、大阪府から情報が入り次第直ちに市長を委員長とする「SARS対策連絡会議」を設置し、保健所に24時間対応のホットライン6回線を開設し、市民からの問い合わせに対応する体制を整備しました。また、患者が宿泊したホテルの従業員や宿泊者の健康調査を実施しました。

しかし、429名の宿泊者の内海外からの宿泊者は11の国・地域、国内の方も36都道府県に跨っており、情報を入手したのが金曜日の夕方です。翌日から休日に入りましたので、旅行代理店等から団体宿泊者の情報が入手できず調査は困難を極めました。

そこで、ホテルの了解と協力を得て、ホテル名を公表しました。これにより、調査がスムーズに進められました。

健康調査の結果

|       | 関係施設  | 対象者数        | 以上の有無                  |
|-------|-------|-------------|------------------------|
| 従業員*1 | ホテル   | 52人         | 異常なし                   |
|       | 免税店   | 22人         | 異常なし                   |
|       | レストラン | 4人          | 異常なし                   |
|       | バス会社  | 1人<br>(運転手) | 異常なし(退院)               |
| 小計    |       | 79人         | 異常なし                   |
| 宿泊客   | ホテル   | 429人        | 異常なし 402人<br>連絡先不明 27人 |
| 合計    |       | 508人        |                        |

\*1 従業員は5月23日再調査済 全員異常なし

また、最新の情報をホームページで市民の皆様提供いたしますとともに、各区保健福祉センターの医師・保健師の協力を得てホットラインでの相談体制を継続することにより市民の皆様の不安の解消に努めました。

SARSホットライン等相談件数

2003. 5. 30現在

| 月 日   | 曜 | ホットライン | 保健福祉センター | 計     |
|-------|---|--------|----------|-------|
| 5月16日 | 金 | 100    |          | 100   |
| 5月17日 | 土 | 1,019  |          | 1,019 |
| 5月18日 | 日 | 534    |          | 534   |
| 5月19日 | 月 | 652    | 213      | 865   |
| 5月20日 | 火 | 349    | 133      | 482   |
| 5月21日 | 水 | 93     | 91       | 184   |
| 5月22日 | 木 | 71     | 46       | 117   |
| 5月23日 | 金 | 47     | 34       | 81    |
| 5月24日 | 土 | 17     | 0        | 17    |
| 5月25日 | 日 | 18     | 0        | 18    |
| 5月26日 | 月 | 19     | 16       | 35    |
| 5月27日 | 火 | 21     | 26       | 47    |
| 5月28日 | 水 | 24     | 14       | 38    |
| 5月29日 | 木 | 16     | 16       | 32    |
| 5月30日 | 金 | 15     | 20       | 35    |
| 合 計   |   | 2,995  | 609      | 3,604 |

(注)5月23日までは24時間体制、以後は午後10時まで受付

5月23日夕刻、SARSに感染していた台湾から来阪された医師の帰国後、潜伏期間とされる10日間が経過し健康調査の結果を総合的に判断し、市内における二次感染の可能性がほぼ無くなったと発表するとともに、5月30日には、市長から厚生労働省に対して①保健所設置市への迅速な情報の提供、②国・自治体間の情報共有システムの構築、③安心して外来受診できる医療機関の指定と入院可能な医療機関の確保、④検疫体制の強化について中間要望いたしました。

さらに一連のSARS騒動を検証し、マニュアルを改定し「SARS発生時ガイドライン」を新たに策定しました。さらにそれに基づき、8月1日、大阪港天保山岸壁で大阪市保健所、大阪検疫所、大阪市港湾局の合同訓練を実施するとともに、11月7日、阿倍野区内において患者が発生したとの想定で大阪市独自で、陰圧装置を搭載した専用車による患者搬送、疫学調査、消毒等の訓練を実施しま

した。また、患者が多数発生した場合に備えて本市を含む7府県市で専用車を相互利用する協定書の締結について協議を進めるとともに、厚生労働省に対して国立病院等の遊休病床の活用などについて要望しました。

また、SARSと症状が似ているインフルエンザが流行する冬季に向けて、市民の皆様にはホームページやパンフレットでインフルエンザの予防接種の勧奨や手洗いなどの予防方法についてお知らせするとともに、SARSの症状があるとの訴えがあった場合には直ちに保健所に連絡いただくようホテルや旅行社等にも呼びかけています。

今後も、大阪市保健所では、海外から入ってくる感染症から市民の生命や健康を守るため、市民の皆様に広く最新の情報や予防方法をわかりやすくお知らせするとともに、万一感染症が発生した場合には関係機関と連携し、速やかに対応し、封じ込め・制圧するため万全の体制で望みたいと考えております。